
スーパーロボット大戦W 極めて近い影達

ヴァールシャイン・リヒカイト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スーパーロボット大戦W 極めて近い影達

【Nコード】

N4529Y

【作者名】

ヴァールシャイン・リヒカイト

【あらすじ】

死んだら竜人の赤ん坊になって、パラレルワールドのアクセル・アルマーとレモン・ブロウニングに拾われ、養子となった男が部下達と共にOG2の世界に次元転移する。アインスト空間から脱出する時に機体が耐えきれずに爆発。気が付いたらスーパーロボット大戦Wの世界に、ゼウスと名乗る者が次元転移をさせて、新たな命と共に、新しい世界で生きていくことを、竜人達は決意する

プロローグ

アインストの空間から脱出したが、機体が耐えきれずに爆発を起こしている

部下達、トライロバイト、シロガネも限界が来ている・・・

・・・此処までか

色々あったな

死んだり、転生したり、竜人に成ったり、パラレルワールドのアクセルとレモンに拾われて親子に成ったり、軍に入隊したり、異世界に行ったり、違う世界の親父と闘ったり

ゲオルグ「・・・此処まで戦い抜けただけでも、上出来だな」

親父、母さん

ごめん

俺、長生き出来なかったよ

機体が大きな爆発を起こすと共に、俺の意識は途切れていった

設定（前書き）

機体ステータスやパイロット能力等はスパロボOG2をもとにして
います

設定

主人公

ゲオルグ・アルマー

年齢

21歳

種族

黒い竜人
ブラックユニット

性別

男

概念

現代で死んだと思ったら、スーパーロボット大戦OGのパラレルワールドに竜人として転生して、捨てられていた処を、その世界の住人である、アクセル・アルマーとレモン・ブロウニングに拾われ、養子となる。性格はレモン譲りである。軍のシャドウミラーに入隊して、アクセルに機体の操作技術を叩き込まれている為、かなりの実力を持ち、機体の整備や知識をレモンに教えられている。両親が死んだ時に、敵機に搭載されていた、ブラックホールエンジンが暴走。その時にワールドシステムの緊急モードが作動し、部下達と共にOG2の世界に次元転位してくる。その後、アインスト空間から脱出する時に、ワールドシステムを使い空間を開いて、もとの空間を開くが、自身の機体の修復、自身の世界のシャドウミラー隊の部下達の機体、戦艦がワールドシステムに耐えきれぬまで回復しておらず、爆発を起こす。その後、スーパーロボット大戦Wに、自分が居た世界のシャドウミラー隊の部下、使用していた戦艦のシロガネと

共に転位をし、状況を確認していると、神と名乗る人物が現れ「我が転位させた、アインストを討ち取った礼として、この世界で好きに生きるとよい」と言われ、ゲオルグにこっそりと「原作に介入して、原作を変えてもかまわん」と言い、Wの世界で生きることを決める

パイロット能力

「格闘」：S
「射撃」：S
「命中」：S
「回避」：S
「防御」：S
「技量」：S
「SP」：B

性格

冷静

地形適応

空S 陸S 海A 宇S

エース

最終命中率+5%、最終回避率+5%、与えるダメージ+5%、受けるダメージ-5

特殊技能

SP回復、念動力L9、指揮官L4、底力L9、カウンターL9、指揮官L4、リベンジ、見切り

BGM

CHAOS

終点（大乱闘スマッシュブラザーズXより）極めて近く、限りなく
遠い世界に

機体

エンペラーゲイン

機体カラー

黒

機体概念

軍のシャドウミラーに入隊したゲオルグの操作技術に機体の性能が
追いつかず、ゲオルグの専用機として、レモンが開発した機体。ソ
ウルゲインの予備機をベースにし、強化改造を加え、ヴァイスセイ
ヴァー、ヴァイサーガの長所を併せ持つっており、次元跳躍装置であ
る、ワールドシステム、T-LINKシステムを搭載している。総
合性能は3機を上回っている。なお、ゲオルグの好みで頭部の形は、
ドラゴンの形をしていて、斬艦刀を追加装備して、機体はOG2の
世界でフル改造済みである

機体ステータス

「HP」：12000

「EN」：600

「運動性」：210

「装甲」：3000

「サイズ」：L

「パーツ」：2

「移動タイプ」：空/陸

「移動力」：8

「地形適応」：空S 陸S 海S 宇S

武装

スタンショック

マインドブラスト

アーマープレイカー

重虎咬

暗龍鱗

残影玄武弾

魔刃閃

O・S・ライフル

ネオ・ソードブレイカー

斬艦刀

麒麟・天

コード・ドラゲリオン

特殊能力

歪曲フィールド、HP回復大、EN回復大、分身、特殊武器無効

シャドウミラー兵

種族

人間 + 獣人

ゲオルグが居た世界のシャドウミラー隊員で、ゲオルグの部下達。かなりの人数で構成されている

パイロット能力

「格闘」：C

「射撃」：C

「命中」：A

「回避」：A

「防御」：B

「技量」：C

「SP」：C

性格

強気

地形適応

空 A 陸 A 海 B 宇 A

エース

命中率+5%、回避率+5%、クリティカル発生率+5%

特殊技能

援護攻撃

援護防御

連携攻撃

BGM

BORN TO FIGHT

CHAOS

機体

量産型ゲシュペンストMk-?

エルアインス・M

ランドグリーズ

機体概念

ゲオルグの世界でシャドウミラーが使用していた機体。ゲオルグ達の為に、用意された拠点のムーンクレイドル（アースクレイドルの施設付き）で、製造している

シロガネ

パラレルワールドでゲオルグが使用していた母艦。Eフィールド、EN回復能力、武装が強化され、ASRSと搭載能力が強化されている

トライロバイト

シャドウミラー隊が使用する戦艦。スペースノア級と比べて、搭載能力とステルス性は強いが、戦闘力で多少劣る

ムーンクレイドル

神が用意した、ゲオルグ達の拠点。軍事拠点兼生活施設として、通常のムーンクレイドルの機能に、アースクレイドルの施設（マシセル関係等）が加えられ、隠密性と防御機能が強化され、食糧生産、兵器の生産設備がチートレベルになっている

設定（後書き）

ゲオルグとシャドウミラー隊メンバー、機体は、OG2の時のLV
や機体改造値を引き継いでいます

第1話 状況確認

途切れた意識が目覚めると、爆発した筈のエンペラーゲインに乗った状態で、月面に居た

月面だと！

何故この場所に居るのだ

レーダーを確認したら、俺の世界のシャドウミラー隊、大破したはずの機体、シロガネ、トライロバイトに乗って居た

『大佐、これは一体・・・どういうことでしょうか・・・大破したはずの機体が修復されています』

ゲオルグ「いや・・・俺にもわからん。(確認するか)・・・全機及びシロガネ、トライロバイト、ASSRSを展開しておけ」

何があるかわからんからな、全機にASSRSを展開させて、どうするか考えていた時だった

「無事なようですね、シャドウミラーの皆さん」

ゲオルグ「誰だ！」何処にいる

周りを見て探していたら

「私は神、全知全能の神、ゼウス」

ゲオルグ「ゼウスとか言ったな・・・全知全能の神が何のようだ」

念動者の感が、何かあると感じる

一体何のようだ

ゼウス「貴方達の機体、戦艦を修復して、この場所に連れてきたのは、訳があります。この場所は・・・貴方達の世界とは、別の世界です」

別の世界だと！？

俺、部下達は突然、異世界に来たことに驚きを隠せないでいる

ゼウス「貴方達は、歪んでしまったアインストを打ち倒しました。しかし、代償として皆さんは死んでしまい、お礼として新たに命を与え、この異世界で過ごしてもらおう為に、連れて来ました」

ゲオルグ「・・・まあ、感謝はする」

何はともあれ命を助けてもらったからな

ゼウス「貴方達の過ごす場所を用意しました」

過ごす場所？

何処だと言っただ

疑問に思っていたら、目の前にムーンクレイドルが出てきた

ゲオルグ「ムーンクレイドル！」

ゼウス「このムーンクレイドルは、アースクレイドルの施設を、兼ね備えています」

それは助かる

食料や生活必需品に困ることは無いな

ゲオルグ「済まないな、此処までしてもらって」

ゼウス「では、私はこれで・・・」

ゼウスの声が聞こえなくなった

ムーンクレイドルに向かうか

ゼウス「言い忘れました、ゲオルグさん・・・貴方だけに伝えることがあります」

伝えること？

疑問に、何か聞いてみた

ゼウス「この世界は、スーパーロボット大戦Wの世界です。原作に介入して、原作を変えても構いません」

原作を変えても構わない・・・何故だ？

ゼウス「この世界は貴方達の為に、用意した世界ですからね」

本当に助かるな

ゼウスにお礼言ったら、ゼウスの声は、今度こそ聞こえなくなり、ムーンクレイドルの中に入って行った

第2話 ムーンクレイドルと予備機体

さて、ムーンクレイドルに入ったのは良いが、本当に驚かされるな
このムーンクレイドルは、アースクレイドルと、同じく地中に潜る
ことができ、隠密性、防御機能が非常に優れ、食糧生産設備、兵器
生産設備が非常に整っている

中にはロボットが居て、食糧生産、兵器生産を手伝わせることが出
来たので、食糧生産をロボット達に任せたら、全員を一つの場所に
集める

「大佐、これからどうします?」

ゲオルグ「暫らくは休息を取れ、体が万全でも、精神の方は、万全
では無いだろう」

部下に休むように伝えたら、数人の部下とロボットを連れて、兵器
生産施設にやって来ると、驚きの物があった

これは・・・PT、AM、戦艦、特機の設計図

・・・使い慣れた奴がいいな、シャドウミラー隊で使っている機体
の予備を生産しておこう

ゲオルグ「では、生産を始めろ」

そう言っていたら、俺の予備機のことを思い出した

ゲオルグ「（俺の機体はエンペラーゲインのみ。有事の時の為にも、予備機を用意する必要があるな）」

機体を探してみるか

ピピッ

ん、ビルトシュバインか。機体性能は悪くは無い、俺好みに改造するか

ビルトシュバインのデータを俺の部屋のパソコンに送る

エンペラーゲインの他にも搭乗機体を作っておいて、片方が使えない場合は、もう片方の機体で出るようにする

俺は、このムーンクレイドルの責任者だから、あんまり外に出ないがな

ゲオルグ「それと、AIの製造をしてくれ」

今のシャドウミラー隊だけじゃ、人数の問題でやられる可能性がある

AIを製造して、損は無いだろう

そう伝えたら俺は、自分の部屋に向かい、パソコンを開く

送っておいたビルトシユバインのデータの開き、部屋に来る途中に
考えた改造プランを纏める

数分後、俺専用ビルトシュバインの改造プランを纏めたら兵器生産施設に通信を繋げる

『大佐、どうか耐えましたか？』

ゲオルグ「ああ、この機体を製造して欲しいのだから・・・」

ピピッ

『この機体は・・・』

ゲオルグ「ビルトシュバインを俺の予備機として改造した機体、シュバイラルだ」

『わかりました、製造に取り掛かります』

ふむ、これで予備機の問題は片付いたな

通信を切ったら椅子に深くもたれかかり、これからのことを考えた

第3話 性能テスト 前編

俺達がこの世界に来て、2ヶ月が経過した

その間に、量産型ゲシュペンスト Mk-?、エルアインス、ランドグリーズの生産状況は整い、幾つかの特機も出来た

そんな中、俺の機体もある

俺の予備機体である、シュバイラルだ

・・・こいつのテストをしておくか

ゲオルグ「これからシュバイラルのテストを行う。護衛として、バルクス小隊はトライロバイトに搭乗しておけ」

バルクス小隊「了解」バルクス小隊長、バルクス・アメラスは腕利きの人間のパイロットだ

もしもの時を考えておかないといかんから

ゲオルグ「よろしく頼むぞ、バルクス」

バルクス「お任せください、司令」

この2ヶ月の間に、俺はこのムーンクレイドルの司令となっている

そろそろ、テストに向かうか

俺とバルクス小隊はトライロバイトに搭乗し、ASRSを展開させて出航した

第3話 機体テスト 後編

さて、テスト区域まで後数分と近づいてきたんだが・・・

ゲオルグ「戦闘が発生している?」

バルクス「はっ、数は多くありませんが如何致します?」

ふむ。

数は少ないのか

ゲオルグ「ちょうどいいな、シュバイラルのテスト相手になってもらおう。」

俺は艦長に現在地にてASRSを展開させて待機、バルクス小隊は護衛を止めて出撃後、見つかった時の為にトライロバイトの守護をするよう指示を出すと、パイロットスーツに着替えて格納庫に向かう。

そこには塗装が終わっていないシュバイラルが黒く塗装された状態で俺を待っているかのように佇んでいた。

どうやら整備士が急いで塗装をしたらしい。塗装はテストが終了した後でするはずだったというのに・・・整備士に感謝をしないといかんか

ゲオルグ「OS設定完了、各計器、各武装、T-LINKシステム異常無し・・・随分と待たせたな、シュバイラルよ。」

起動後異常が無い事を確認するとペダルを踏んでリニアカタパルトへと機体を移動させる

ゲオルグ「ゲオルグ・アルマー。シュバイラル、飛翔せよ!!」

両ペダルを深く踏み込んでリニアカタパルトから宇宙に打ち出される。

ゲオルグ「この程度のG、何ともない。」

これだとエンペラーゲインの方がまだきついぞ。

戦闘区域はあっちだな。

シュバイラルのスピードならば・・・2分で着く。

行くぞ、シュバイラル。

ASRSを展開させて到着したんだが・・・

居たのはヴァルストーク、ヴァルホーク、ガンダムデスサイズヘル、ガンダムサンドロック改、多数のエイド。

ゲオルグ「はあ」

原作に介入する事になろうとはな。

ゲオルグ「主人公達をやるわけにもいかな、イバリューダーを撃退させてもらおうか。」

ロシュセイバーを装備したらASSRSを解除してテスラ・ドライブをフルブーストで使用してエイドに急接近し、擦れ違いざまに斬る。斬られたエイドは爆散し、残りのエイドは後方に下がって距離を取る。

ゲオルグ「やらせてもらっぞ、イバリューダー！」

ロシュセイバーを直し、サークルザンバーの強化タイプであるフェイデットザンバーを発動させて突撃する。

カズマ達は味方と判断したのかエイドに攻撃して、俺には攻撃してこない・・・

つと、エイドがニードルガンで攻撃してくるが念動フィールドで攻撃は無力化される。

ゲオルグ「ふ、残念だったな。フェイデットザンバー！」

斬らせてもらっぞ、エイド。

ゲオルグ「デッド・エンド・スラッシュ！」

エイドは真つ二つになり爆散する。

残りのエイドはカズマ達が仕留めたようだな・・・中々の腕だが、まだ甘い。

ゲオルグ「それよりも、シュバイラル・・・中々使いやすい機体だな。」

もうこの場に用はない、オリジナルオーガンに接触する予定はないからな

俺はASRSを展開させてフルブーストでこの場を離脱し、トライロバイトに連絡して帰還する。

シュバイラルのステータス

機体

シュバイラル

機体概念

ビルトシュバインを基に大幅な改造を施した機体である。テスラ・ドライブ、T-LINKシステムを搭載することで優秀な機体に仕上がっている

機体ステータス

「HP」：5000

「EN」：200

「運動性」：120

「装甲」：1400

「サイズ」：M

「パーツ」：2

「移動タイプ」：空/陸

「移動力」：7

「地形適応」：空 A 陸 S 海 A 宇 S

武装

バルカン砲

M13ショットガン

フォトンライフル

ロシュセイバー

リースラツシャー

フェイデットザンバー

特殊能力

効 念動フィールド、HP回復小、EN回復中、気力系無効、精神系無

第4話 噂される竜

カズマside

俺達は戦闘が終わった後に、ブリッジに集まっていた。

突然現れた機体が攻撃したおかげで戦闘は早く終わった。

ホリス「あのアンノウンは一体何者でしょうか？」

アカネ「知らないよ、でもそんなに悪い奴じゃないかもね。」

そうそう、俺もそう思うぜアカネ姉。

デュオ「それにしても見たことねえ技術を使ってたな。」

あれには驚いたぜ。

ビームコート系じゃないバリアで攻撃防いでいたからよ。

プレス「今度アンノウンが現れたら礼の一つでも言っておこう。」

よっしゃ。

助けられたのにお礼言っていないからよ、今度あったら言っておく。

side Out

ゲオルグ「へくしゅ！」

いかな、風邪を引いてしまったのか？

ゲオルグ「噂だろっ。」

それよりも目の前の報告書に目を通さないと。

報告によれば戦闘用のAIが出来たので実戦で試したいとのことだ。

ゲオルグ「誰にやらせるか・・・ウェイガルにやらせるか。」

ウェイガルはウォーダン・ユミルの弟子でありスレードゲルミルのパイロットでもある。

実力もあるから任せてもいいだろう。

ヴェイガル「ヴェイガル・アレグス、只今参りました。」

ゲオルグ「ヴェイガル、お前には明日、戦闘用AIのテストをしてもらいたい。」

指定ポイントでAIのテストを行い、戦闘データを記録して欲しいし、修理したスレードゲルミルのテストも出来るからな。

テストの内容を説明し、ヴェイガルは了承して明日の準備に向かう。

ゲオルグ「オービタルリングの周辺か・・・」

指定したポイントはオービタルリングの周辺だ。

ラダム獣程度ならば対処が簡単出来るし、ヴェイガルもいるから大丈夫だろう。

第5話 AIの完成

翌日

パソコンを弄っていると通信が来た。

ゲオルグ「予備の専用機の開発をしてくれだど・・・」

通信の相手はアルグム・ガルマー。

我らシャドウミラー隊のメンバーであり、親父が過去にやったことのある特殊処理班隊長をしている男である。

性格も親父のようだが優しさもある男だ。

アルグム「ああ。今ある機体では俺の操作技術についてこれんし、ソウルゲインはフルオーバーホール中だからな」

それを聞いて考える。

アルグムの実力を無駄にするわけにもいかないし、これまでの功績もあることだからな・・・

ゲオルグ「いいだろう・・・何系の機体がいいのだ？」

アルグム「アサルト・ドラグーン系統の機体で頼む。俺が考えた改造データを今送る。」

相変わらずアサルト・ドラグーン系統の機体を好むな奴だ。

アルグムが考えた改造データを受け取ったら通信を切り、パソコンのデータからアサルト・ドラグーンシリーズのアシユセイヴァーの設計図を画面に出してアルグムの考えた改造データを修正したりする。

数分後、専用機の改造データを纏めたら開発部にデータを送り、開発を始めるように指示を出した。

書類仕事を使用したらまた通信が来た。

ウェイガルからか・・・

ウェイガル『ゲオルグ様、任務完了しました。』

ほう・・・もう完了したのか。

ウェイガル『AIのテスト結果なのですが十分に使える性能です。』

ゲオルグ「わかった帰還しろ。」
ウェイガル「承知。」

通信を切つたら書類仕事を今度こそ始める。

ようやくAIの完成したか・・・これで介入や偵察がやりやすくなる。

そっいえばメギロート改の設計図があつたな・・・メギロート改に使用して偵察や調査をするか。

第6話 皇帝の竜 前編（前書き）

これからカツコの前に名前は書かないでいこうと思います

第6話 皇帝の竜 前編

俺はとある調査報告書を見ていた。

「ナデシコが火星に？」

数日前にわかったことなのだがこのムーンクレイドルは通信に関する施設が充実している。

この施設のおかげでハッキングなどがばれないで出来るのだ。

ナデシコはネルガル重工にハッキングした際に情報にあつた。

「はっ、いかが致しましょうか？」

そっだな・・・

相転移エンジンやディストーションフィールドが気になるが仕掛けなくてもいいな。

暫くしたらオービタルリングで会える。

「今は仕掛けるな、暫くしたら力を見極める。AI用の量産型ヒュッケバインMk-?はどうなっている？」

「既にAIを搭載しており、実戦に出せます。」

本来ならばメガロート改にAIを搭載する予定だったのだが、ある程度の戦闘力も必要だったので最初からクレイドル内にあつた量産

型ヒュツケバインMk-?を改造して使用することに決定した。

機能はビームコート、ジヤマー、装備はバルカン、ビームソード、M950マシンガン、Gリボルバー、バーストレールガン。

AI用の機体には中々の性能だ。

「後、アルグム隊長の専用機であるアンブラーセイヴァーが完成しました。」

「アルグムに、戦闘で馴らせ、つと伝える・・・それから俺はエンペラーゲインでGGG本部に向かう。」

手に入れた最新の情報を見たらGGG本部がDr・ヘルの機械獣軍団に襲撃されらしい。

現在はラダムの襲撃を受けている。

ラダムや主人公勢には悪いが改修したエンペラーゲインの相手になってもらおう。

「わかりました、僚機はお連れになりますか？」

「この総指揮官である俺が心配なのはわかるが・・・」

「いらん、改修したエンペラーに慣れることもある。後のことは任せたぞ。」

見せてもらおうぞ・・・この世界の奴らの実力を。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4529y/>

スーパーロボット大戦W 極めて近い影達

2011年12月19日00時54分発行